校長室からこんにちは！

No.３２
３月１４日
発行者　中田 禎二

仰げば尊し

　学校現場から役所に転勤になった当初，戸惑い，なかなか慣れないことがありました。一つは静かな環境，もう一つは学校のように様々な行事がないことです。一つ目の環境でいうと，静か過ぎることで落ち着かなかったのです。学校は子どもの歓声が響き生命の躍動に満ち溢れています。それに慣れていたので，静かに進んでいくデスクワークは逆に落ち着きませんでした。二つ目の行事。私にとっての役所での最大の行事は議会です。議会の度に無い知恵を絞り出し，汗を拭きつつ議員さんに説明したことを昨日のことのように思い出します。ですから，学校教育で１年間を通して行う行事の大切さを再認識しました。
　ドーハ日本人学校は３２名の子どもたちで今年度を締めくくります。１年間を振り返ったとき，そこには日々歓声が響いていました。行事のたびに‘とことん’を目指し，そこに少しでも近付こうと努力・協力する姿がありました。
　学校は主役である子どもと教職員が共に一つの目標に向かうという基本を一歩一歩本校は歩んできたと思います。
　本校には教員・事務職員・校務員・ドライバー・ガードマンと，いろいろな職種のスタッフが子どもの日々に関わっています。私は１年の終りに当たって，子どもと教職員双方を褒めたいと思います。
　そして，私は，学校は楽しい所であり，楽しい学びの中から夢を育ててほしい，その願いから経営ビジョンを「子どもが夢を抱き夢を育む学校」として教職員とスクラムを組んで取組んでまいりました。その「夢」は中東に生活する子供だからこそ，きっとグローバルに様々に色づき形作られると思いますし，そう願っています。それこそがカタールの大地からの恵みではないでしょうか。

　いよいよ大詰めです。週が変われば，月曜日は学校最大の行事である卒業式です。
　今年度は助川蓮風さんと土江陽菜さんが中学校へ旅立ちます。先日二人の答辞と中学部の送辞ならびに小学部の送る言葉を見せてもらいました。そこには多くの学び・思い出とともに，仲間との，教職員との「絆」が溢れていました。

　平成２４年度，子どもたちが大きな事故や病気にあうことなく，そして，強い絆で結ばれ，全員元気に終了できますのも保護者の皆様はもちろん，日本人会・大使館等関係者のご理解・ご支援のお陰でございます。
　年度の終了にあたり心よりお礼申し上げます。１年間ありがとうございました。

校長写真館

　卒業式を前に練習が続きます。厳粛な儀式を行うためのそれに，ホールには緊張感が溢れています。
　儀式的行事に日本文化の伝統を学びます。

ちょっとお耳を…

　３月１１日，ドーハ時間午前８：４６，全員がホールに集合し，東日本大震災で犠牲になられた御霊に黙とうを捧げた。
　あれから２年。まだ２年。もう２年…。
　子どもたちに言ったこと，それは，「毎日の生活を大切にすること。先生の指導を守って勉学に励むこと」。という当たり前のこと。僅か３２人かもしれないが，その徹底は必ずや復興への風になると思う。
　中東で頑張る日本人の思いを乗せる風になれ！